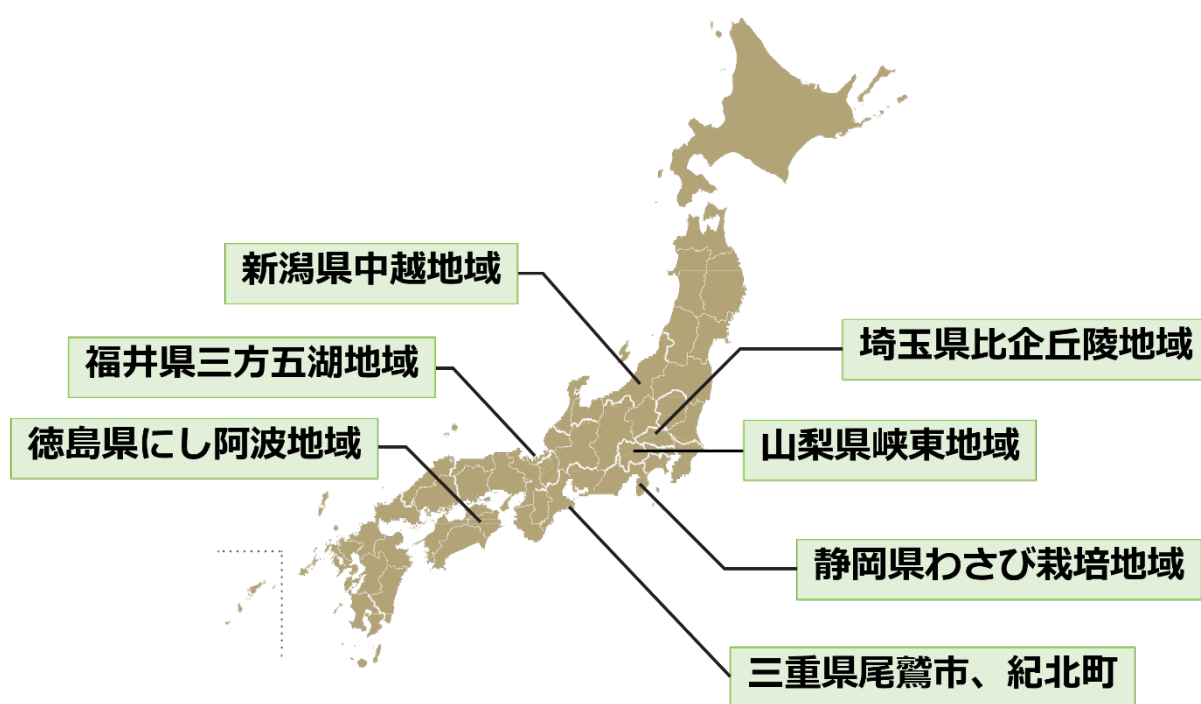


農業遺産クイズ 解説



第1問

新潟県中越地域は棚田（山の斜面へ階段状に造られている田んぼ）が多い地域ですが、棚田の一部を池として利用し、ある生き物が育てられています。その生き物は何でしょう。

答え（ウ）ニシキゴイ

解説

雪が多い新潟県中越地域では、棚田でお米を作るとともに、冬の食料としてため池（農業用に雪どけ水などをためた池）で真鯉を飼う暮らしが行われてきました。この真鯉から突然変異で生まれた色のついた鯉を飼育し続けたことにより、江戸時代の後半にニシキゴイが誕生しました。

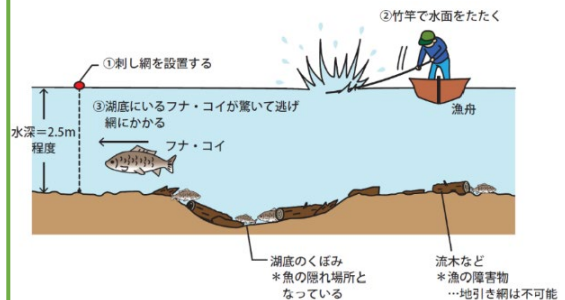
第2問

福井県三方五湖地域には5つの塩分濃度が異なる湖があり、それぞれの湖の環境に合わせて独自の漁法が受け継がれてきました。そのうちの一つ、三方湖で冬に行われる、フナ・コイを獲るための漁法はどのようなもののでしょうか。

答え（ア）水面を竿でたたき、フナ・コイを驚かせて捕まえる

解説

冬に三方湖で行われる「たたき網漁」は、水面が凍ることがない暖かい気候と、水深が浅い三方湖の特徴を活かした漁法です。水中に垂直に網を張り、冬の寒さにより動きが遅くなったフナやコイを、水面を棒でたたくことによって驚かせ、網で絡めとって捕獲します。



第3問

山梨県峡東地域では、扇状地（水はけが良い土地）を利用し様々な果樹が栽培されています。この地域に古くからある大善寺（国宝）では、あるものを持った薬師如来像が祀られています。が、何を持っているでしょう。

答え（ウ）ブドウ

解説

峡東地域は、日本のブドウ栽培が始まった地とされ、ブドウの品種「甲州」は、1,300年前にはすでに栽培されていたと言われています。山梨県甲州市にある国宝大善寺には、非常に珍しい、手にブドウを持った薬師如来像が安置されており、「ぶどう寺」とも呼ばれています。



第4問

徳島県にし阿波地域は、傾斜の多い土地を段々畑にせず、斜めのまま耕作する「傾斜地農法」が伝統的に営まれています。この農法の中で、行われていない作業はどれでしょう。

答え（イ）土が下がらないように一つ一つの畝間に柵を作る

解説

にし阿波地域で営まれる「傾斜地農法」は、草地で採取した敷き草（カヤ）を畑にすき込むことで、雨や風による土の流出をなるべく抑え、おき、流れ落ちた土を伝統農具を使って手作業でかき上げるツチアゲを行い土壌を守っています。

第5問

埼玉県比企丘陵地域では、谷筋ごとに水をせき止めて作った「谷津沼」というため池が、大小合わせて350以上も築かれています。この地域の特徴である「谷津沼」の説明として誤っているものはどれでしょう。

答え（ア）豊富な湧き水が湧く

解説

比企丘陵地域は、地理的に大河川から水を引くことが難しく、1600年頃までに谷筋ごとに350以上にものぼるため池（谷津沼）が築かれ、農業用水を確保してきました。これらのため池は自然の降雨に頼り、きめ細やかな水管理を行うことで、限られた水を無駄なく利用しています。また、それぞれのため池が大河川と繋がらず独立していることから、外来魚などが侵入しにくく、固有の生態系が守られています。

第6問

静岡県わさび栽培地域では、山の傾斜に沿って沢を階段状に開墾し石積みの段々畑を作る「畳石式」と呼ばれる方法でわさびが栽培されています。わさびの栽培環境として適さないものはどれでしょう。

答え（ウ）強い日差し

解説

わさび栽培地域では、約 400 年前の江戸時代初期に世界で初めてわさびの栽培が始まりました。「畳石式」わさび田は、年間を通して冷涼かつ酸素を多く含んだ湧水が供給されるため、わさびの栽培に適しており、生産量を飛躍的に向上させました。また、わさびを強い日差しから守るために、わさび田には適度に日差しを遮るヤマハンノキが植えられています。

第7問

三重県尾鷲市、紀北町は、古くから林業が発展している地域です。急峻な山岳地帯で降水量が多く土地がやせているという環境を逆手に取り、そのような土地でも育つ樹種を選び、木材品質を高める独自の技術が発達しました。この地域で育てられている樹種は何でしょう。

答え（イ）ヒノキ

解説

三重県尾鷲市、紀北町は、地形が急で険しいうえ、年平均 3800mm を超える多雨により土壌が発達しにくい地域です。かつては成長量の大きいスギが中心でしたが、1850 年以降にやせた土地でも育つヒノキへの樹種転換が行われ、現在は人工林の 9 割をヒノキが占める全国でも例のないヒノキ造林地帯を形成しています。ナラは広葉樹で、やや乾いた土地を好みます。